

平成29年6月定例会

市長説明要旨

山 鹿 市

本日、ここに、平成29年6月定例会を招集しましたところ、議員各位におかれましてはご多用の中、ご出席を賜り厚くお礼を申し上げます。

本定例会においてご審議いただきます諸議案の説明に先立ちまして、平成29年度の市政運営に関する私の所信を申し上げ、市民の皆さま並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

■日本経済と国政の動向

日本経済は、政府が4月に発表した月例経済報告において、「景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている」との見方が示されております。

また、地域経済に目を向けますと、3月の有効求人倍率が、全国平均を上回る1.54倍となるなど、県内の雇用環境も確実に改善してきているところであります。

こうした中、国においてはデフレからの脱却を確実なものとし、経済再生と財政健全化の双方を同時に実現するため、「経済財政運営と改革の基本方針2016」、「日本再興戦略2016」及び「ニッポン一億総活躍プラン」等を着実に実行するとしております。

■市政運営方針

それでは、「平成29年度における市政運営の基本的な方針」についてご説明いたします。

昨年度は、「第2次山鹿市総合計画前期基本計画」及び「山鹿市総合戦略」の実働元年と位置づけ、それぞれに掲げる施策を着実に推進いたしました。

中でも、地方創生の取組は、仕事を創り、経済を活性化させるとともに、人を呼び込み、子育て支援を充実させることで住みやすい環境をつくり、地域活性化に繋げるというものであります。

そのため、平成29年度も引き続き、第2次山鹿市総合計画に掲げたまちづくりの基本姿勢である「人を創る」、「経済を創る」、「住み続けたいまちを創る」の3本の柱を重点施策といたします。

また、市民一人ひとりが健康であること、市民の誰もが明るく、親切であること、まちや地域が整然として美しいことの3つのキーワードを基に、人が輝き、地域が輝くことで、幸せあふれる山鹿、すなわち「きれいな都市やまが」の実現を目指してまいりたいと考えております。

■ 予算編成の考え方

続きまして、平成29年度の予算編成方針について申し上げます。

国、地方を通じた厳しい財政状況の中にあっても、行政には地域に活力を与え、住民の生活の豊かさや満足度を最大化する責務があります。人口減少や過疎化といった本市が抱える構造的な課題に対しても真正面から向き合い、限られた経営資源を最大限に生かし、その克服を目指してまいります。

このことを念頭に、平成29年度は、第2次山鹿市総合計画の「3本の柱」の深化と、山鹿市総合戦略に掲げる地方創生に向けた施策に重点的に取り組むことといたしております。

当初予算を骨格予算で編成したため、政策的な経費を含めた肉付け後の予算総額は、274億5,667万6千円であります。

これに8特別会計と3企業会計を合わせますと、純計では476億2,382万2千円となります。

■ 平成29年度に重点的に取り組む施策

それでは、ただ今申し上げました予算編成方針に基づき、「3本の柱」ごとに重点的に取り組む施策の概要について、ご説明いたします。

まず、第1の柱「人を創る」についてであります。

市民が将来に希望を持ち、いきいきと暮らしていくために、ふるさとの良さを理解し、ふるさとに誇りを持ち、地域を支えていく人材を育成してまいります。

① 学校施設環境改善、安全・安心な学校づくり

近年、大きな災害が頻発する中で、今後の学校施設においては、施設の快適性やバリアフリー化はもとより、安全面や防災機能面の整備・充実も求められております。学校は、児童・生徒の学習の場、一日の大半を過ごす生活の場でもあることから、学校教育環境の改善と施設の整備・充実を図ってまいります。

② 介護人材育成支援

要介護者などの増加に対し、介護を担う人材が不足しており、大きな課題となっております。そのため、新たに介護職員の研修受講費や資格取得費用の一部を助成することで、技術や能力を向上させ、介護職員の確保、定着化、並びに利用者への質の高い介護サービスの継続的な提供に繋げてまいります。

次に、第2の柱「経済を創る」についてであります。

菊鹿ワイナリーや新シルク蚕業、山鹿灯籠など地域資源を生かした3つの構想を戦略創造プロジェクトとして引き続き推進するとともに、日本遺産登録を契機として農林業及び商工・観光業の連携強化を図り、本市の知名度アップ、交流人口の拡大、地域経済の活性化に取り組んでまいります。

基幹産業である農林業の活性化のため、「収益性の高い農林業」の実現を目指し、将来にわたり地域農業を支える担い手の育成、農地中間管理機構の活用による農地集積・集約化の推進、基盤整備の推進などの施策を積極的に進めます。また、日本型直接支払い制度等を有効に活用し、農林業の活性化と農業・農村の多面的機能の維持・強化に繋げてまいります。

商工・観光振興面では、市外から、ひと・カネ・モノ・情報を呼び込み好循環させることで、起業や雇用の創出に繋げるとともに、観光客などの交流人口の拡大と宿泊者の増加により、本市の地域経済の活性化を図ってまいります。

① ワイナリー構想

ワイナリー構想を実現するため、本年度は、6次産業化連携推進施設の整備とともに、そこで販売する商品として、市の特産物である栗を素材とする上質で洗練されたスイーツ等の土産品の開発を行います。

② 新シルク蚕業構想

本年4月に完成した大規模周年無菌養蚕工場を核として、シルク産業の復活・集積による地域産業の活性化と雇用創出と定住促進を図るとともに、世界市場の開拓による「ジャパン・ブランド・シルク」を確立し、山鹿発の新たなシルク産業創生へ向けた事業を展開してまいります。

本年度は、昨年度に続きアクセス道の整備、ブランディング戦略による情報発信、高機能・高付加価値シルクの研究開発と新市場開拓に係る支援、さらに国内外のシルク産業関係者が一堂に会する「2017 やまが・シルク・サミット」を開催します。

③ 山鹿灯籠ジャパンプランド構想

「日本一の紙と糊の工芸品・山鹿灯籠」、「日本一優雅な踊り・千人灯籠踊り」を唯一無二の山鹿ブランドとして更に磨き上げ、国内外にその魅力を発信することで、観光地山鹿の知名度の浸透を図ってまいります。

④ 日本遺産認定後の事業推進

本年4月に文化庁より認定された日本遺産を大きなチャンスととらえ、菊池川流域4市町の連携事業を着実に実施してまいります。

また、方保田東原遺跡出土品をはじめ、市内に点在する多くの文化財を活用して、観光・農業事業者とも連携しながら広く国内外に地域の文化資源情報を積極的に発信し、交流人口の増加を図ってまいります。

最後に、第3の柱「住み続けたいまちを創る」についてであります。

市外からの移住定住を進め、新しい人の流れや地域住民との交流を促すことで、若い世代の定着を目指します。また、子どもを安心して産み育てることができる環境の整備と、健康で安心して暮らし続けることのできるまちづくりに取り組んでまいります。

① 移住定住促進

移住・定住を希望される市外の方に対し、有益な情報発信を続けてまいります。また、移住相談窓口の支援体制の充実を図るとともに、新たな支援制度を設け、移住・定住に向けた更なる環境整備を行います。

加えて、移住体験ツアーや移住希望者と移住者・地域住民との交流促進等により、市民の受入意識の醸成や移住・定住の効果拡大を図ります。

② 保育環境充実支援

老朽化した私立保育園の園舎改修事業に要する経費の一部を補助することにより、子どもを安心して産み育てることができる環境整備を進めてまいります。

③ 健康づくり推進

健康づくりでは、「市民歩こう運動」を加速させ、主に健康や運動に関心が薄い方々を対象に、生活習慣の動機付けや定着化に向けた取組を新たに実施いたします。

これにより、市民一人ひとりが「自分の健康は自分で守る、創る」という意識の高揚を促してまいります。

④ カルチャースポーツセンター整備

本年度は、「カルチャースポーツセンター第2次整備計画」に基づき、テニスコート及び多目的グラウンド等の整備に着手いたします。これらの施設整備により、充実したスポーツ環境が提供でき、スポーツ人口の拡大や健康増進につながるとともに、県大会以上の規模の各種大会が開催可能となり、観光や文化施設と連携したスポーツ拠点施設としての魅力が高まると考えております。

■その他の重要事業

以上、3つの重点施策のほかに、以下の《重要事業》にも取り組んでまいります。

○最近、特に豊前街道沿いの空き家、空き店舗が増え、歴史的まちなみが失われつつあることから、古民家を利用した賑わいの創出を目指し、熊本県や市民とともに、歴史的まちなみ再生に取り組めます。

○「観光地経営」の視点に立った舵取り役として、「山鹿版DMO」の設立を目指し、セミナー等を開催するとともに、民間企業が持つ専門知識を活用した市場調査と分析に基づいた観光戦略の推進、地域資源を生かした着地型観光商品の開発・販売を中心とした事業展開を図ってまいります。

○インバウンド観光の推進として、世界女子ハンドボール、東京オリンピック・パラリンピックの開催を視野に、東アジアを中心としたプロモーションを実施するとともに、訪日外国人を含めた観光客の受け入れ態勢の整備を行い、地域経済の活性化を図ってまいります。

■結びに

以上、平成29年度の市政運営や予算編成に当たっての、私の基本的な考え方と施策の概要について申し上げます。

今後、地方創生の取組による成果をさらに確実なものとするためには、スピード感をもって着実に事業を実施しなければなりませんし、議員各位、市民の皆様をはじめ、企業、各種団体を含む「オール山鹿」で厳しい現実に対処していかなければなりません。

私は、5万3千の市民を真正面に据え、これから生まれてくる子どもたちの幸せのためにも、必ず地方創生を実現するという強い思いをもって、挑み続ける決意でございます。

本日から18日間にわたりご審議いただきます議案は、条例5件、予算3件、人事案件3件の計11件と報告5件でございます。これらの諸議案の内容につきましては、担当職員が説明いたしますので、ご審議のうえ、何卒ご議決を賜りますようお願い申し上げます。